

んとおもふ心うせにけり、

〔萬葉集二挽歌〕高市皇子尊城上殯宮之時、柿本朝臣人麻呂作歌一首并短歌
挂文忌之伎鳴○中鳥玉能暮爾至者、大殿乎振放見乍、鶴成伊波比廻雖侍、略○下

〔萬葉集四相聞〕大伴宿禰家持贈紀女郎歌一首

鶴鳴故鄉從念友、何如裳妹爾、相緣毛無寸、

〔千載和歌集四〕百首歌奉ける時、秋歌とてよめる、

ゆふざれば野邊の秋風身にしみて鶴なくなりふか草のさと

〔就狩詞少々覺悟之事〕一ふせ鳥と云事、雉と鶴と二ならでは、ふせ鳥とはいはず、ふせて射事と云事、此二ならでは有まじき事也、能々可心得事也○中

一矢開にせざる鳥の事、うづら鶯二ツなり、殊人無存知事也、昔より用ざると云々、しさいは秘事也、

〔武江產物志〕山鳥類 鶴西ヶ原、

〔風俗文選三〕百鳥譜

深草に住なる鶴は、其聲すみやかにして、世をは、からず、山にもちかく水にも遠からず、粟の穂の静なる時は、こゝにも出てあそぶなるべし、

〔新撰字鏡〕鶴上字加也久岐○鶴又左々支、鶴張交反、黃鳥、

〔倭名類聚抄十八〕鶴 唐韻云、鶴音晏、和名、雀鶴、小鳥也、

〔箋注倭名類聚抄七〕按加也、菅茅也、久岐漏也、與古事記自手侯久岐斯子也、萬葉集伯勞鳥之草具吉保登等藝須木際多知久吉之久岐同、是鳥好潛飛菅茅之間、故以名之、輔仁舉本草拾遺蒿雀訓加也久岐○中廣韻云、鶴爾雅曰、屬鶴、郭璞云、今雀鶴、鶴上同、無小鳥也之注、按晉語注云、鶴雇、小

支考

鶴加夜久木、雀鶴、小鳥也、